【リフレクションペーパー I ～自ら学ぶ学習者をいかに育てるか？～】

2007/3/18

000g0000 ■■ ■■

●教育に関する自説（考え方、哲学、見方、やり方）

1 年前の私は、MR（医薬品情報担当者）の教育者として8 年目を迎えていた。教育に関する論理的な自説など特になく、唯一持っていた教育のモットーは、“学習者が楽しく学べるようにする”であった。教育と言え、講師が教壇に立ち講義をするものと信じていた。ただ、経験を積んでいく中で、学習者を飽きさせず、教育効果を上げるために、以下のような取り組みは行っていた。

- ・講義の際は、冒頭に1 日で学ぶ内容の概略を示す。
- ・一方的な講義は20 分以内におさえる。
- ・学習者が理解しづらい所は、簡単な例えを用いる、図解する等工夫を凝らし説明する。
- ・途中に、席の隣どうしで、これまでの分かりにくかったところ等の話し合いをさせる。
- ・重要な所はお互いに説明する練習を取り入れる。（インプットした事をアウトプットする訓練）
- ・休憩の前には、それまでの理解度をはかるためのクイズを出題する。

しかし、これらはすべて経験的な勘に頼るところが多く、自分のやり方が本当に効果的なのかどうか自信を持てなかった。そんなある日、MR の教育者を対象としたセミナーに参加し、インストラクショナル・デザイン（ID）の存在を初めて知り（特にガニエ理論に感動）、また本専攻の存在を知った。鈴木教授との衝撃的な出会いもあった。私は早速、科目等履修生に申し込み、昨年6つの科目（ID、IM、IT）を受講した。その中で”学習者”の気持ちを思い出す事ができ、提供していただく学習方法から教育者としての知恵も数多く頂いた。また、私の学習心に火が付き、この1 年間で、様々な分野の書物を50 冊近く読んだ。（特に感銘を受けた書物は以下に5 冊列挙した。）
このような1 年間で過ごした中で、私の中には以下のような教育自説が生まれた。

=====

“学習”とは、目標設定、自己チェック、自発的動機付け、自己改革の連続により、成長していく過程である。また、“教育”とは、学習者のレベルに合わせ、個人の学習をサポートすることである。そして、両者ともに必要なものは、”信念”である。

=====

私は、これからの2 年間で、“自ら学ぶ学習者をいかに育てるか？”について研究し、実践に結び付けていきたいと考えている。（特に動機づけの部分）

●自説形成に強い影響を与えた書物

- ・教材設計マニュアル（独学を支援するために） 鈴木克明北大路書房（2002 年）
- ・授業を変える（認知心理学のさらなる挑戦） 米国学術研究推進会議北大路書房（2002 年）
- ・学ぶこと教えること（学校教育の心理学） 鹿毛雅治・奈須正裕金子書房（1997 年）
- ・仕事の哲学（最高の成果をあげる） P.F. ドラッカーダイヤモンド社（2003 年）
- ・学問のすすめ福沢諭吉（檜谷照彦現代語訳） 三笠書房（2001 年）